

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300735		
法人名	医療法人 木水会		
事業所名	グループホーム八州苑いわふね		
所在地	栃木県下都賀郡岩舟町 1281-1		
自己評価作成日	平成22年8月20日	評価結果市町村受理日	平成22年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは多くの行事等の開催を心がけており、法人内の行事のほかユニットの特性を活かしてのいわふねA・B館合同によるお楽しみ会や、ホテル見学やイルミネーション見学等の夜間外出も行っている。季節ごとの行事が豊富にあり、入居者も楽しみにしており好評を得ている。また、その様子を御家族に毎月写真を添えて手紙を送るなど、交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは国道から少し入った静かな環境に位置している。ホームでは5つの基本理念と3つの行動指針、4つの処遇指針を掲げ、入居者の人間性を尊重し、家庭的雰囲気の中で入居者が自分の生活スタイルでゆったりと生活できるよう、職員が寄り添い、必要な支援を行っている。職員は、共同生活者として、入居者が自分らしい生活が送れるよう適切な支援に努めており、内外の研修や職員同士の勉強会等に積極的に参加し、レベルアップにも努めている。運営推進会議には町の担当職員や2つの自治会からの民生委員の出席があり、積極的な意見交換や情報提供があり連携が図られている。地域住民とは、日常生活や地域の納涼祭等の行事やホームでの行事等を通して積極的に交流している。同法人には他にも近隣にグループホーム、医療機関、介護老人保健施設等があり、互いに交流し連携が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「基本理念」「行動指針」をホールの目立つ所に掲示すると共に、毎朝申し送りの際、全職員で唱和し意識を高め理念の実践に努めている。	5つの「基本理念」と、“ゆっくり・たのしく・いっしょに”という「行動指針」を定めており、所内に掲示している他、毎朝の申し送りの時に全職員で唱和をして確認している。各職員には理念が浸透しており、理念の実践にむけてサービス支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭等の行事に地域の方々も参加していただいている。地域の商店より食材を購入したり、運営推進会議に民生委員の方が参加している。また、目の前に通学路があり、グループホームが「子供110番の家」になっている為、時々子供との交流もある。	自治会には加入していないが、近隣住民が花を持って来てくれたり、小学生がプール帰り等に水飲み場に立ち寄り等、地域と自然な付き合いが出来ている。また、近くの商店で食材を購入しており、なじみのつきあいをしている。	ホームが2つの自治会の境にあり自治会への加入は懸案とのこと。両地区の民生委員や役場の理解があるとのことであり、地域との交流をより深め、今後も地域との協力体制の強化への取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の施設見学やボランティアの受け入れ等行っている。また、地域の方からの介護や施設サービスに関する問い合わせや相談にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っており、入居者、民生委員、地域包括支援センター、役場、家族に同席していただき、行事等の報告をしている。また、会議で出た意見を定例会等で話し合い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は利用者、家族、2つの自治会の民生委員、地域包括支援センター職員、役場担当職員の参加により2ヶ月に1回開催され、サービス状況報告や意見交換等の話し合いを行っている。そこでの意見等は職員間で共有し、運営やサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に同席していただき、実際に施設や入居者の様子を見ていただいたり、議事録を提出することで情報交換を行っている。また、問題が生じた際は相談し共に協力して問題解決に取り組んでいる。	役場の担当職員が運営推進会議に参加しており、ホームの状況を密に報告している。日頃からも担当者が電話だけでなく気軽に来所してくれ、情報交換や様々な相談に乗ってもらっており、良い関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故や不審者の侵入防止の為、家族了承のもと施錠しているが、希望時には外出できようになり、天気の良い日にはなるべく散歩に出掛ける等努めている。また、身体拘束の勉強会を行い理解に努めている。	身体拘束をしないケアについての研修は全職員が参加している。玄関は職員の多い時は施錠しないが、車の往来の多い道路がホームの前にあり、普段は安全のため家族からの了解のもとに施錠している。いつでも外出の希望にそえるよう見守りをし、外出機会も多くする等、入居者が不自由を感じないよう努めている。	

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などで虐待防止法に関する理解を深めるほか、入浴時に全身の状態観察を行い、傷やアザ等があった場合は、原因の確認に努め職員間で情報を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会を行っている。必要と思われる入居者や家族には、制度についての説明を行い、活用を検討していただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は担当者が家族にわかりやすく、納得するまで説明している。解約時も家族とよく話し合い、次の受け入れ先が決まってから退居していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を伺ったり、ご意見箱を設置している。面会時のヒヤリングなど、意見を伝えやすい環境を作っている。また、役場にも苦情相談窓口がある事を説明し、いただいた意見は職員間で話し合い、運営に活かしている。	重要事項説明書に苦情受付窓口が明記され、意見箱も設置されている。常に職員は入居者及び家族に積極的に話しかけ、意見や要望を表わしやすい環境づくりに努めている。意見や要望等が出された時には定例会議や朝の申送り時に職員間で共有しており、改善点等を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月毎の定例会やそれ以外でもスタッフへの問いかけ等は随時行われており、それらを運営に反映させている。また、管理者から代表者にそれらを伝える機会がある。	運営者及び管理者は定例会や伝達帳により、また日常業務の中でも職員から意見や提案を聞いており、必要なものはホーム長会議で検討している。道の駅への夜のイルミネーション見学も入居者・家族の要望を聞いていた職員が提案し、実現したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフのレベルに応じた業務上の役割を与えている。また、永年勤続者や資格取得者などを表彰することで向上心を持って働ける環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会に加え、ホーム独自の勉強会を行っている。また、外部の研修にも積極的に参加し知識や質の向上に努めている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修には積極的に参加をして交流の機会を持っており、また同法人内の他の介護サービス事業所との勉強会や行事等の機会もあり、それらを通じてサービスの質の向上を図っている。他事業所からも研修生の受け入れや他事業所への見学も行い、情報交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身状況の他、生活歴や生活環境等できる限りその方のことを聴き取って、理解に努めている。その方にも、ホームに入居した場合の生活がイメージできるよう随時見学を受け入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の中で、家族との情報交換をすると共に家族の意見も聴き取って相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームを第一に考えるのではなく、まずは本人と家族の状態を把握し、何を求めているかを必要としているのかを考え、その人に合ったサービスなのか見極め、他のサービス利用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは共に暮らすという事を念頭に置き、利用者から裁縫・料理・園芸などを教わりながら一緒に行ったり、レクや外出を通して一緒に楽しむ機会を設けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や手紙・電話にて近況報告や状態の説明をこまめに行っており、本人と家族、ホームと家族の関係が細くならないように配慮している。面会の少ない家族には、面会を促すと共に来やすい雰囲気心がけ、ホームの運営への協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙の希望がある時は積極的に支援をし、また面会者にはお茶やお茶菓子を差し入れ、来訪しやすい環境に気をつけている。入居者の希望があれば、職員と自宅の様子を見に行ったり、同敷地内のデイサービスに行き、友人と会う機会もある。	職員は入居者の要望に基づき、家族、友人への電話や手紙のやり取りの支援をしたり、入居者に来客があった場合にはお茶等を出して寛いでもらえるようにしている。また、入居者の自宅と一緒に出掛ける等、これまでの馴染みの関係が途切れないように支援をしている。	

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、利用者一人ひとりに声掛けをしており、利用者同士の関係を把握すると共にトラブルの際には双方の話しをそれぞれ納得がいくまで聞き、問題の解決につなげている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等は随時受け付けており、希望される方には法人の広報新聞“やすらぎ”の送付や納涼祭の案内の通知を行っている。入院や死亡退去の場合は、お見舞いや葬儀参列により本人・家族の精神面への支援もしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して、本人の希望・意向や趣味・嗜好の把握に努め、それらを踏まえた上で仕事や役割、レクリエーション、行事等を検討している。	入居者それぞれに担当職員がおり、日頃の会話や家族の意見等から本人の希望や意向の把握に努めている。センター方式を活用し、得意不得意、昔の生活、本人が忘れていたことまで把握に努め、本人の思いに添えるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時のヒヤリングの他、入居後の本人・家族の何気ない会話にも注意を払い、センター方式を活用してこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を介護記録に正確に記録し、また定例のスタッフミーティング等を通じてスタッフ個別の情報も共有し、状況を把握してケアプランに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族のヒヤリングを基に、医療関係者・介護スタッフの意見を加味して、ケアプランを作成している。ケアカンファレンスを定期的に行ってケアプランを作成しているほか、状況の変化に応じた見直しを行っている。	本人・家族の意見や要望を基本に、主治医や法人の介護老人保健施設の看護師、職員の意見等を加味した介護計画を作成している。3か月及び6か月毎に見直しをしている他、状況の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録表を整備し、事柄だけではなく会話の内容や表情等も記録している。また、それらのファイルはスタッフがいつでも目を通せる場所に保管しており、情報を共有しながら介護に活かしている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム単体のみならず、法人内の他の事業所と連携し、本人と家族の希望や状況に応じた対応・支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公共施設の利用や行事への参加やボランティアや実習生の受け入れ等、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の医院を定期的に受診しているが、本人・家族と相談の上でその他の医療機関も受診することができる。受診時には、本人の状態を的確に伝えられるよう各種記録を持参して、スムーズな診察が受けられるよう支援している。	協力医となっている法人の医院に定期的に受診の支援をしている。他医療機関に家族と受診される場合でも必要により職員の同行を行ない、各種記録を持参し、情報を提供することによりスムーズな受診が出来るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の老人保健施設の看護師が週2回訪問している。利用者の体調を報告・相談し、受診等の助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族や病院と密に連絡を取り、状態の把握に努めている。また、利用者のホームでの生活の様子などを伝えたり、情報交換をし早期退院に向けた対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前から、家族に体調等の報告をしている。早い段階から、本人・家族と話し合いを行い、「看取りの指針」を基に出来る事を説明し、対応に努めている。	「看取りの指針」をもとに、早い時期から本人や家族の意向を確認し、主治医の意見等も参考に話し合いをしている。今のところ事例はないが、今後看取りの要望があれば本人及び家族と話し合いを重ね、支援できる体制を整えて行きたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行ったり、マニュアルを作成し、事故発生時や緊急時の対応を習得している。地元の消防署による通報訓練など、災害発生時の対応も身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。また、消防署との連携をとり、通報・避難訓練を行っている。民生委員を通し、地域との協力体制を整えている。	定期的に消火・通報・避難訓練を役場に隣接した消防分署の指導の下で年3回実施しており、その中で夜間時を想定した訓練も実施している。今年度中にスプリンクラーが設置される予定である。	定期的に訓練が実施され、年度内にスプリンクラーの設置も見込まれているが、今後も運営推進会議や地区の民生委員などを通して地域住民による協力支援体制の構築に向けた取組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意思を尊重した声掛けをすると共に、スタッフはミーティングや毎日の介護を通じて入居者の状態(精神的・身体的なもの)を把握しており、それぞれの方に合った対応をしている。	入居者一人ひとりの人格を尊重した支援に取り組んでおり、入居者の呼び名は「さん」付けで呼んでいる。職員全員が接遇研修等で学んでおり、入居者それぞれに応じた声かけや支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定していただけるよう、「お伺い」を立ててから行動している。また、「促し」や「励まし」によって自発的に行動していただけるよう、声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活が保てるよう、基本的な時間割はあるが、本人のペースや希望を尊重し「お伺い」を立ててから支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好みの服を選んで着ていただき、スタッフは季節・気温・汚れ等に配慮している。また、本人の希望に沿って、理美容にかかれるよう支援し、化粧療法を取り入れるなど工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理、準備片付け等は出来る範囲で手伝っていただいている。また、昼食は担当スタッフが一緒に利用者とお話をしながら同じ食事を食べている。なお、外食会などで好きなものを食事する機会もある。	食事の準備や片付け、野菜の筋取り、配膳、食器拭等、入居者のできる範囲で職員と共に行い、食事は職員と入居者が一緒に会話をしながら摂っている。月1回バイキングメニューを取り入れたり、外食会等を催しており、食事を楽しくする工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養バランスを考えた献立を管理栄養士が作成し、毎食後食事量や水分チェック表を記入し、状態の確認をしている。食事以外にも、水分摂取を促すなど本人に合わせて常に水分が取れるように支援している。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前は口の体操を行い、食後はスタッフが声掛けをして、個々に口腔ケアをしている。また、義歯は夜間、定期的に職員が消毒をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録を毎日付けて、排泄パターンを把握し、時間毎のトイレ誘導と使用物品の工夫により対応している。	ホームでは入居者一人ひとりの排泄時間を把握しており、自然な声かけによりトイレへ誘導している他、パットやポータブルトイレ等も併用して、排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を実施し、水分摂取にも気をつけている。また、食事以外でも希望者には牛乳やヨーグルト・ヤクルトなどを出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望の確認を毎日行い、時間帯や長さも出来る限り希望に合わせてるように配慮している。入浴が苦手な方には、タイミングを合わせ快く入浴できるよう工夫している。	入浴は毎日出来るようになっており、希望を毎日確認しながら支援をしている。職員のさりげない脱衣介助や浴槽での介助により入居者が安心して楽しめる入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息している人がいる時や夜間は大きな物音に気を付け、寝付けられない方がいる時は、ゆっくり話し相手になり、安心できるよう一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を把握出来るよう、薬の提供表をファイルしている。また、薬の変更があった際は伝達帳にも記入し、職員に周知徹底している。服薬後に変化があればかかりつけ医に相談し、対応している。協力病院の薬剤師とは24時間連絡が取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理など出来る事や出来そうな事は手伝っていただけよう促している。また、馴染み深い仕事や趣味と一緒に楽しんでいる。その他、レクリエーション等で気分転換の支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外で体操をしたり、散歩したり外に出る機会を設けている。買い物に行く際も希望者を募り、一緒に出掛けている。外出やドライブの際には、入居者の希望を聞き、また施設でお連れ出来ない場所には、家族にその旨を伝え協力を仰いでいる。	できるだけ外出希望の対応に努めており、買い物支援は週1回程度行ない、要望があればその都度出かけている。また、法人の車を使用して梨狩りや紅葉狩り、小山の県南公園への遠足などに行く計画をしている。希望があれば家族も参加し一緒に外食したりもしている。	



グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして職員が預かり管理しているが、本人の希望により多少の金額を所持している場合もある。管理の際は、出納帳を作りレシートを保存し、家族の面会時に内容を確認していただいている。また、買い物時は出来る限り本人に支払っていただくようサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との通話の際は、居室にてお話できるようコードレスホンを使用したり、手紙を贈送する際には施設からの通知の封書に同封したり、年賀状やクリスマスカードを送るなど大切な方との連絡を取るサポートをしている。また、本人の希望により、携帯電話の持ち込みも可能。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使う物と同じ物を使用したり、テレビの音や照明、日差し、室温の調節等は利用者の確認を取りながら行っている。室内の装飾は、季節毎に変え利用者が作成した作品等も飾り、居心地良い空間作りに配慮している。	共用空間にはさりげなく音楽が流れており、入居者から時折曲名の希望があったり、職員に曲名を教えてくれる入居者等もあり、楽しく居心地の良い空間を醸し出している。リビング等には自然光が差し込み明るく、壁には四季に応じて入居者が作成した作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の椅子やテレビ周りのソファ、玄関周りの椅子等、自由に過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器等も含め、居室内の家具などご自身で使用される物は、使い慣れた馴染みの物を持ち込み使用している。また、思い出の写真なども飾っている。	各居室は入居者各々に個性ある空間を作っており、ベランダで草花や鉢植えを育てたりしている。ベッドや家具等馴染みの物が置かれ、居室入口には入居者の写真が飾られ、迷わずに入居できるような工夫されている。季節の変わり目の衣替えは職員も手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の手すりの設置や物干し台の高さの調節、椅子利用時の踏み台の作成等、その方の身体機能に合った工夫をしている。また、それぞれの方が解り易い様、トイレ・居室などの表示や掲示物の大きさ・飾り方等調節を行い、利用しやすい環境作りに努めている。		